

受領No. 1693

アルゴリズム統治の制御に向けたデジタル立憲民主シーの構想

代表研究者 松尾 隆佑（宮崎大学 准教授）

Big Tech, Algorithmic Governance, and Digital Constitutional Democracy

Representative Ryusuke Matsuo (Associate Professor, University of Miyazaki)



研究概要

現代の巨大テック企業は、人工知能などのアルゴリズムを介して市民に大きな影響を及ぼせる。一部の私企業が不透明なアルゴリズムに基づいて市民を「統治」することは、民主的な正統性を欠く。このため、国家同様の憲法的制約をテック企業に適用するデジタル立憲主義の議論が盛んとなっているが、市民参加の役割は軽視されてきた。そこで本研究は、「私的政府」としての企業はその被治者の参加を通じて制御されるべきだとする職場デモクラシー論の知見をデジタル立憲主義と結びつけ、テック企業の民主的正統性を追求するデジタル立憲民主シーの構想を具体化することを目指す。とりわけ、(1) 国境横断的に存在する多様なステークホルダーによる迅速かつ柔軟な意思表示を可能にするオンライン投票システムと、(2) 無作為に抽出された一般市民から成るアルゴリズム監督機関の設置により透明性やアカウンタビリティを向上させる企業内ミニ・パブリックスを、民主的企業統治の有効な手段として検討し、両者の統合に基づくデジタル立憲民主シーの可能性を提示する。